



専用アプリでイノシシの動きを24時間監視  
「捕獲」ボタンを押すと、おりが閉まる仕組み

## 町の助成制度

### ● わな猟免許取得に対する補助金

新たにわな猟免許を取得し、有害鳥獣捕獲に従事する人に対し、講習会や試験にかかる費用の一部を助成します。

### ● 電気柵やワイヤーメッシュ柵設置に対する補助金

柵の購入経費の2分の1以内の額(上限5万円)を助成します。

問 産業振興課 ☎582-2126

## Interview

### イノシシの動きを読み、的確に確保

これまでは、仕事の合間に週に2～3回程度、現場を訪れていましたが、システムの導入によって、ほぼ毎日携帯電話から状況を確認できるようになりました。先日もイノシシの親子がわな周辺に近づいているところを発見し、ちょうど大型のイノシシがわなに入った瞬間に捕まえることができました。今後も有効活用していきたいです。

これからイノシシが繁殖する時期を迎えます。イノシシがくくりわなにかかった際は、危険なので決して近づかず、役場まで連絡するようにお願いします。

CT(情報通信技術)を活用した有害鳥獣対策実証事業として、遠隔からの監視や操作が可能なイノシシ用の囲いわなを5月15日、平沢地区に設置しました。この事業は、ALSO K福島株式会社とKDDI株式会社協力のもと実施しています。システムの仕組みは、まず、イノシシが囲いわな付近に出没すると、センサーが感知して、有害鳥獣対策実施隊と町担当職

員のスマートフォンにプッシュ通知が届きます。現地のライブ映像を確認しながら、イノシシがわなに入るタイミングを見計らい、スマートフォンを通して、遠隔操作で捕獲できるといいます。わざわざ現地まで行かずに、監視や捕獲、録画映像の確認などができます。6月2日には、このシステムを使って、大型のイノシシ1頭を捕獲しました。初めは警戒してわなに近づかなかった大型イ

ノシシも、無警戒でわなに入る小型のイノシシを捕獲せず餌を食べさせることで、1週間後に警戒心が解けてわなの中へ。遠隔監視のおかげで、タイミングを逃さず、捕獲できました。



有害鳥獣対策実施隊 鈴木 節美さん

# 有害鳥獣対策ICT活用実証事業 イノシシを、遠隔から監視しながら捕獲